

3) 植物相の概要（海域）

事業実施想定区域の周辺の海域における文献その他の資料による海域の植物相の概要は、表 3.1-75 のとおりである。

表 3.1-75 海域の植物相の概要

項目	既存資料による主な出現種
海藻・海草類	エチゴカニノテ、ピリヒバ、ヒメテングサ、マクサ、カイノリ、ツノマタ、ワカメ、ヒジキ、タマハハキモク、マメタワラ、ボウアオノリ、スジアオノリ、シオグサ属、ミル等
植物プランクトン	<i>Thalassiosira</i> sp.、 <i>Leptocylindrus danicus</i> 、 <i>Guinardia delicatula</i> 、 <i>Proboscia alata</i> 、 <i>Chaetoceros curvisetus</i> 、 <i>Chaetoceros socialis</i> 、 <i>Neodelphineis pelagica</i> 、 <i>Thalassionema nitzschioides</i> 等

注：1. 種名は文献の記載及び日本産海藻目録（吉田忠生 等、藻類63(3)、平成27年）に従った。
 2. 「北九州港湾計画資料（その2）－改訂－」には優占種の情報のみ掲載されているため、確認種類数は表内に記載しない。
 「北九州港湾計画資料（その2）－改訂－」（北九州港湾管理者・北九州市、令和5年）より作成

① 重要な種（海域）

既存資料で事業実施想定区域の周辺の海域において確認された種について、表 3.1-77 に示す選定根拠に基づき、学術上又は希少性の観点から海域の植物の重要な種を確認した。

その結果を表 3.1-76 に示す。

今回文献調査で確認された重要種は、1 種確認された。

表 3.1-76 海域の植物の重要な種（海藻・海草類）

No.	分類	種	選定根拠					
			全 国				福岡県	
			①	②	③	④	⑤	⑥
1	緑色植物門	スジアオノリ	－	－	－	減傾	－	－

注：1. 種名は文献の記載及び日本産海藻目録（吉田忠生 等、藻類・63(3)、平成27年）に従った。
 2. 重要な種の選定根拠は、表 3.1-77に対応する。
 3. 「－」は、該当がないことを示す。

② 干潟・藻場・さんご礁

事業実施想定区域の周辺の海域における藻場は、表 3.1-78 のとおりであり、分布状況は図 3.1-36 のとおりである。事業実施想定区域の北側に位置する関門海峡を隔てた山口県域にガラモ場等が分布している。

なお、事業実施想定区域の周辺の海域には干潟及びさんご礁は確認されていない。

表 3.1-77 海域の植物の重要な種の選定根拠及びランク

選定根拠			参考文献等
全 国	① 「文化財保護法」により指定されているもの	・国指定特別天然記念物（特天） ・国指定天然記念物（国天）	・「文化財保護法」（昭和25 年法律第214 号）
	② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」により指定されているもの	・国内希少野生動植物種（国内） ・国際希少野生動植物種（国際）	・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75 号）
	③ 「レッドリスト」（環境省）に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） ・絶滅危惧ⅠA類（CR） ・絶滅危惧ⅠB類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	・「環境省レッドリスト2020 の公表について」（環境省、令和2 年）
	④ 「野生水生生物に関するデータブック」（水産庁編）に取り上げられているもの	・絶滅危惧種（危惧） ・危急種（危急） ・希少種（希少） ・減少種（減少） ・減少傾向（減傾） （「自然変動の範囲にあるもの（普通）」は対象外とした。）	・「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」（水産庁、平成10 年）
福 岡 県	⑤ 「福岡県文化財保護条例」により指定されているもの	・福岡県指定天然記念物（県天）	・「福岡県文化財保護条例」（昭和30 年条例第25 号） ・「福岡県の文化財」（福岡県HP、令和6年9月閲覧）
	⑥ 「福岡県の希少野生生物ー福岡県レッドデータブック2024ー」に取り上げられているもの	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧ⅠA類（CR） ・絶滅危惧ⅠB類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD）	・「福岡県の希少野生生物ー福岡県レッドデータブック2024ー」（福岡県、令和7年）

表 3.1-78 事業実施想定区域の周辺の海域における藻場

図中 番号	地 名	藻場のタイプ	現存藻場面積 (ha)	優 占 種
1	馬島	ガラモ場	1	ヤツマタモク、ノコギリモク、クロメ
2	和合良島	アラメ場	4	ツルアラメ、オオバモク
3	六連島	ガラモ場、アラメ場	27	ホンダワラ類、アラメ
4	竹ノ子島	ガラモ場	19	ホンダワラ類
5	彦島大橋	ガラモ場	9	ホンダワラ類
6	福浦港	ガラモ場、アラメ場、 ワカメ場、テングサ場	2	ワカメ、テングサ、アカモク、クロメ

注：1. 図中番号は、図 3.1-36の番号に対応する。

2. 現存藻場面積は、浅海域のみの面積である。

「自然環境調査Web-GIS」（環境省生物多様性センターウェブサイト、令和7年7月閲覧）より作成



図 3.1-36 藻場の位置

(3) 生態系の状況

1) 事業実施想定区域及びその周辺の自然環境の類型化

事業実施想定区域及びその周辺の自然環境について、植生図（図 3.1-34）の凡例から表 3.1-79 に示す 9 の環境類型に区分した。環境類型区分は、図 3.1-37 のとおりである。

表 3.1-79 環境類型区分一覧

図中 番号	環境類型区分	植生の凡例
		事業実施想定区域の周辺
1	常緑広葉樹林	シイ・カシ二次林、タブノキ・ヤブニッケイ二次林
2	常緑広葉樹低木林	マサキ・トベラ群集
3	落葉広葉樹林	コナラ群落（Ⅶ）
4	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林、クロマツ植林
5	竹林	竹林
6	草地	ススキ群団（Ⅶ）、チガヤ・ススキ 群落、ゴルフ場・芝地
7	耕作地	畑雑草群落
8	市街地等	路傍・空地雑草群落、市街地、緑の多い住宅地、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、工場地帯、造成地、自然裸地
9	開放水域	開放水域

注：図中番号は、図 3.1-37の番号に対応する。

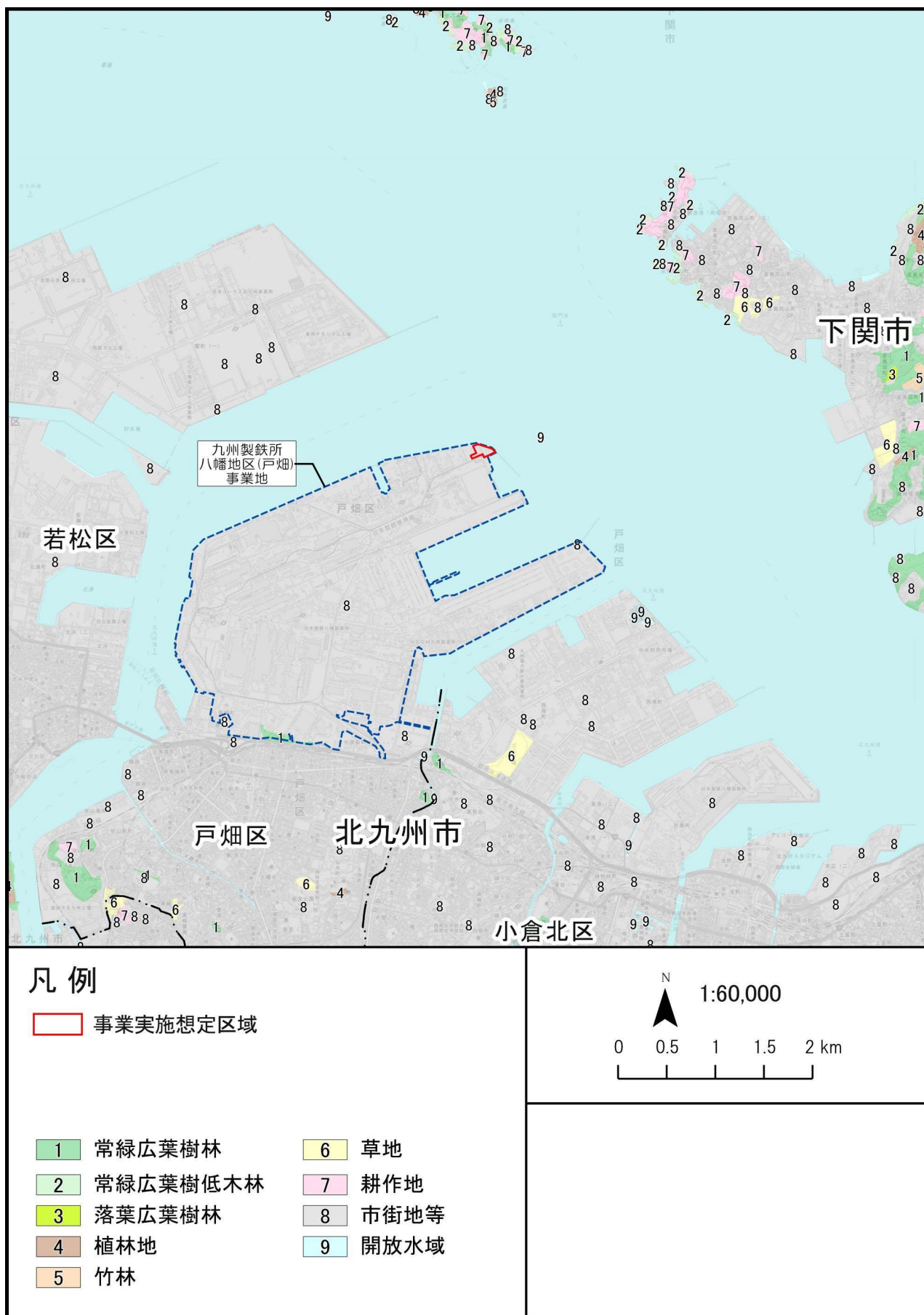


図 3.1-37 環境類型区分図

2) 生態系の概要

事業実施想定区域及びその周辺の生態系について、動物及び植生の既存資料に基づいて整理した。

事業実施想定区域の周辺は、主に工場地帯、造成地が占めており、一部に路傍・空地雑草群落、ゴルフ場・芝地等の草地、シイ・カシ二次林等の樹林地が分布している。

このような場所には、下位の消費者であるアオイトトンボ、トノサマバッタ、モンキチョウ等の昆虫類、中位の消費者であるニホンアマガエル、ヌマガエル等の両生類、キジバト、ヒバリ、ホオジロ、セッカ等の鳥類、ハタネズミ等の小型哺乳類、上位の消費者であるシマヘビ等の爬虫類、タヌキ等の中型哺乳類及びサシバ、ノスリ、ハヤブサ等の猛禽類が生息し、食物連鎖を形成していると考えられる。

事業実施想定区域及びその周辺の食物連鎖模式図は、図 3.1-38 のとおりである。

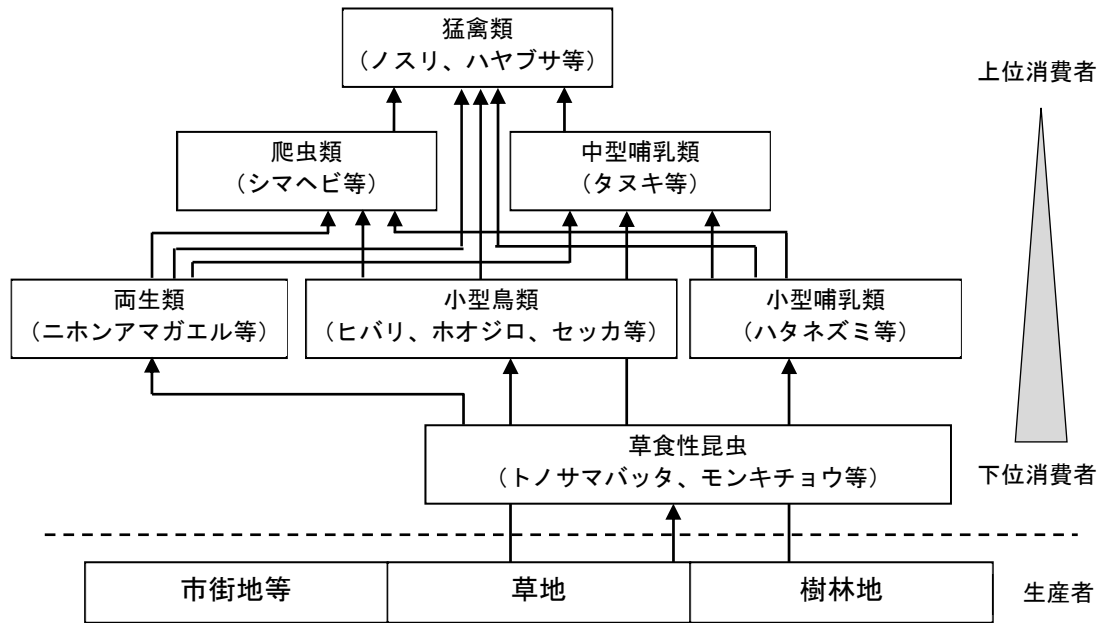


図 3.1-38 事業実施想定区域及びその周辺食物連鎖模式図